



Jera





Jera
Energy for a New Era

Mission

世界のエネルギー問題に 最先端のソリューションを提供する

当社は、グローバルに展開している事業を通じて、世界最先端のエネルギー・ソリューションを日本に導入し、日本が直面するエネルギー問題の解決に貢献。日本の新たなエネルギー供給モデルの構築を目指します。同時に、日本で構築したエネルギーの供給モデルを、世界で同様のエネルギー問題に直面している国々に提供し、世界のエネルギー問題解決にも貢献します。

Vision

再生可能エネルギーと低炭素火力を組み合わせた クリーンエネルギー供給基盤を提供することにより、 アジアを中心とした世界の健全な成長と発展に貢献する

当社は、安定供給を確保しながら、中長期的に脱炭素化を実現していくため、長年培ってきた火力発電事業の運用の強化に加え、デジタル技術を活用して再生可能エネルギーと低炭素火力を組み合わせることによって、クリーンエネルギーの供給基盤を構築します。この安定供給と脱炭素化を両立するための基盤を、アジアを中心とした世界へ提供することで、世界の健全な成長と発展に貢献し企業価値最大化を目指していきます

TOP MESSAGE

世界のエネルギー市場から評価され、 世界中の人々から必要とされる グローバル企業を目指します

代表取締役会長 佐野 敏弘

当社は、2015年4月に東京電力と中部電力との包括的アライアンスに基づき、日本に国際競争力のあるエネルギー企業を創出することを目指して設立されました。それから段階的に事業を統合し、2019年4月に既存火力発電事業等の完全統合をもって、燃料上流・調達から発電、電力／ガスの卸販売に至る一連のバリューチェーンが当社に一元化され、国内火力発電の半分を占める発電能力と、世界最大級の燃料取扱量を誇るエネルギー会社となりました。

事業の拡大にともない国内外の環境変化に的確に対応するため、事業開発、最適化、O&M・エンジニアリングのシナジー効果が最大限発揮できるようにすると同時に、ガバナンス機能の強化も図り、既成概念にとらわれないボーダレスな組織を形成しました。

また、持続的な成長の実現に向けた戦略の中核には、ダイバーシティ&インクルージョンの推進を据え、多様な人材が互いのバックグラウンドを尊重し合い、対等なコミュニケーションを通して、新しい価値を創造していきます。

気候変動をはじめとした環境問題やエネルギーに関連する諸問題など、様々な社会課題が山積する中、当社に求められていることは、日本だけでなく、世界のエネルギー問題に最適解を出すことであると認識しています。私たちは、これらの課題解決に全社一丸となって取り組むことで持続可能な社会の発展に貢献するとともに、企業価値を高めることで、世界のエネルギー市場から評価され、世界中の人々から必要とされるグローバル企業を目指します。

エネルギーの未来を支える グローバルリーダーとして、 脱炭素社会の実現をリードしていきます

代表取締役社長 小野田 聡

当社のミッションは「世界のエネルギー問題に最先端のソリューションを提供する」ことです。具体的には、LNGインフラの開発、最適化・トレーディングの拡大、再生可能エネルギー事業の拡大、LNG火力発電の性能向上、さらに脱炭素に向けた取り組みなど、世界の流れをよく見極めながら事業を展開しています。また、暮らしとモノづくりを支える電気やガスを、安全、安価で安定してお届けするという基本的な考え方を前提としながら、「再生可能エネルギーと低炭素火力を組み合わせたクリーンエネルギー供給基盤を提供することにより、アジアを中心とした世界の健全な成長と発展に貢献する」というビジョンの実現を目指します。今まで培ってきた火力発電の技術を最大限に活用したゼロエミッション火力と再生可能エネルギーを組み合わせた電源構成モデルを経済成長が著しいアジアを中心とした新興国に展開し、経済を支える電力の安定供給と脱炭素を支援していきます。

その上で、国内最大の発電会社である当社は、脱炭素社会の実現を積極的にリードしていく立場にあるとの認識のもと、持続可能な社会の実現に貢献するため、2050年時点で国内外の当社事業から排出されるCO₂の実質ゼロに挑戦する「JERAゼロエミッション2050」を2020年10月に策定しました。また、この実現に向けた具体的なアプローチとして、国内のゼロエミッションに向けた道筋を示した日本版ロードマップを策定し、2035年に向けた新たな環境目標「JERA環境コミット2035」を制定しています。今後は、それぞれの国や地域の状況に応じたロードマップも策定し取り組んでいく予定です。

脱炭素社会の実現は、人類共通の課題です。世界のエネルギー問題を解決していくグローバル企業として、脱炭素社会の実現をリードしてまいります。



JERAゼロエミッション2050

～国内外の事業でCO₂ゼロエミッションに挑戦～

日本のみならず世界のエネルギー問題を

解決していくグローバル企業として、

地球温暖化対策を経営の最重要課題と考えています。

国内最大の発電事業者として

長期的に目指す姿を明確にすべく、

「JERAゼロエミッション2050」を策定しました。



JERAゼロエミッション2050

- JERAは世界のエネルギー問題に最先端のソリューションを提供することをミッションとしております。
- 当社は、持続可能な社会の実現に貢献するため、ミッションの完遂を通じて、2050年において国内外の事業のCO₂ゼロエミッションに挑戦します*。

JERAゼロエミッション2050の3つのアプローチ

① 再生可能エネルギーとゼロエミッション火力の相互補完

ゼロエミッションは、再生可能エネルギーとゼロエミッション火力によって実現します。再生可能エネルギーの導入を、自然条件に左右されず発電可能な火力発電で支えます。火力発電についてはよりグリーンな燃料の導入を進め、発電時にCO₂を排出しないゼロエミッション火力を追求します。

② 国・地域に最適なロードマップの策定

ゼロエミッションは、国・地域に最適なソリューションとそれを示したロードマップの策定を通じて実現します。それぞれの国や地域は導入可能な再生可能エネルギーの種類、多国間送電網・パイプラインの有無等、異なる環境におかれているため、国・地域単位でステークホルダーとともに策定します。まずは日本国内事業のロードマップを提案し、他の国や地域にも順次展開をしていきます。

③ スマート・トランジションの採用

ゼロエミッションは、施策の導入を決定する段階で、イノベーションにより利用可能となった信頼のおける技術を組み合わせること（スマート・トランジション）で実現します。低い技術リスクで円滑にグリーン社会への移行を促します。

* JERAゼロエミッション2050は、脱炭素技術の着実な進展と経済合理性、政策との整合性を前提としています。当社は、自ら脱炭素技術の開発を進め、経済合理性の確保に向けて主体的に取り組んでまいります。

JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ



本ロードマップは、政策等の前提条件を踏まえて段階的に詳細化していきます。前提が大幅に変更される場合はロードマップの見直しを行います。
※CO₂フリー LNGの利用も考慮しております。

2050年時点で専焼化できない発電所から排出されるCO₂はオフセット技術やCO₂フリー LNG等を活用

JERA環境コミット2030

JERAはCO₂排出量の削減に積極的に取り組みます。

国内事業においては、2030年度までに次の点を達成します。

- 石炭火力については、非効率な発電所(超臨界以下)全台を廃止します。また、高効率な発電所(超々臨界)へのアンモニアの混焼実証を進めます。
- 洋上風力を中心とした再生可能エネルギー開発を促進します。また、LNG火力発電のさらなる高効率化にも努めます。
- 政府が示す2030年度の長期エネルギー需給見通しに基づく、国全体の火力発電からの排出原単位と比べて20%減を実現します。

JERA環境コミット2035

JERAは次の取り組みを通じて、2035年度までに、国内事業からのCO₂排出量について2013年度比で60%以上の削減を目指します。

- 国の2050年カーボンニュートラルの方針に基づいた再生可能エネルギー導入拡大を前提とし、国内の再生可能エネルギーの開発・導入に努めます。
- 水素・アンモニア混焼を進め、火力発電の排出原単位の低減に努めます。

「JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ」、「JERA環境コミット」は、脱炭素技術の着実な進展と経済合理性ならびに政策との整合性およびその実現下における事業環境を前提としています。

JERAのバリューチェーンと事業概要



2021年3月31日時点

※1…2020年度

※2…当社の受入基地に輸入した国の数を表す。

※3…知多・四日市地区は、他社との共同基地を含む。

※4…建設中を含む。国内は共同火力保有分を除く。

JERAのビジネスモデル

O&M・エンジニアリング

事業開発

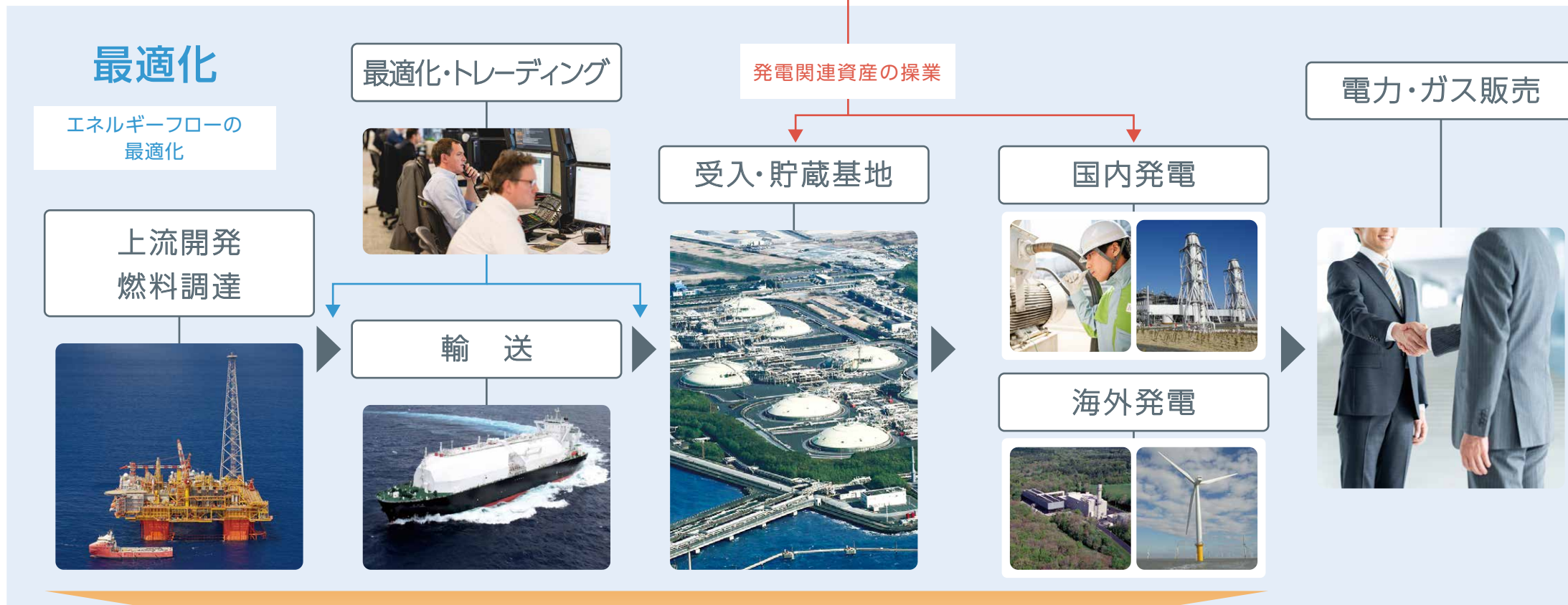
新規開発によるバリューチェーンの規模・領域拡大や既存資産のリストラクチャリングを通じた最適な資産ポートフォリオの構築

最適化

燃料調達・輸送から発電、電力・ガス販売に至るエネルギーの流れを一括して最適化することで最も経済的な運用を実現

O&M・エンジニアリング

燃料の受入・貯蔵基地および火力発電所を安全、低コストかつ機動的に操業



事業開発

資産規模・領域の拡大

電力・ガス販売



受入・貯蔵基地



国内発電



海外発電



最適化・トレーディング



輸送



最適化

エネルギーフローの最適化

上流開発 燃料調達



事業開発

国内外に約8,000万kWの発電資産、11カ所のLNG受入基地を開発・保有する世界最大級の発電事業会社であると同時に、世界10カ国からの長期LNG調達、20隻のLNG船、5カ所のLNG生産プロジェクトに関与する燃料事業会社であるJERA。これらの大規模事業から得た多様な開発能力をさらに進化させ、燃料調達から発電までの一体型プロジェクト(Gas to Power)や大規模再生可能エネルギー事業の開発も積極的に進め、各国・地域のニーズに合った事業を拡大します。

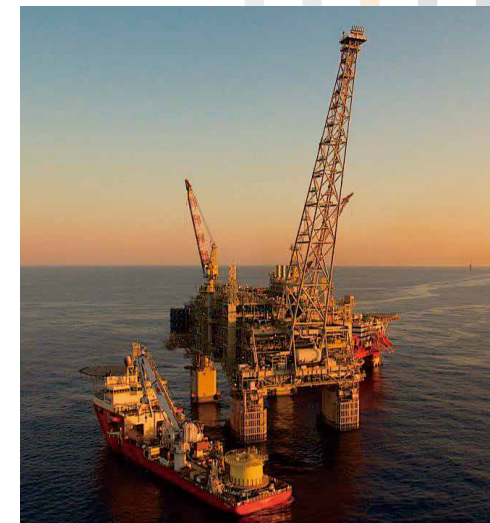
マーカスフック発電所(コンバス・ガス火力IPP事業)

燃料上流・長期LNG調達・輸送事業

LNG長期契約の規模を活かし、燃料上流事業やLNG船事業に参画。資源や自社船を根本から確保することで安定的かつ柔軟性が高く、競争力のある燃料供給に貢献します。

国内発電事業

既存の火力発電所のインフラを活用しつつ、最高効率の発電所に建て替えを進めることで競争力を強化するとともに環境負荷を低減。エネルギー・環境政策と整合する電源構成を実現し、エネルギー供給の安定性と持続可能性の両立を牽引します。



Sourced from Chevron Australia

海外発電・バリューチェーン事業

1990年代に初めて海外発電事業に参画して以降、世界各国のプロジェクトで培った経験を活かし、成熟国における自由競争下の電力事業から、新興国における燃料供給から発電所の建設・運営に至る一体的な開発まで、国や地域の実情やニーズに合った発電資産を開発・運営します。

再生可能エネルギー開発事業

技術革新により、有力な発電オプションとなった蓄電池を含む再生可能エネルギーを今後のコア事業の一つと位置付け。再生可能エネルギー事業において先進的な海外の国や地域での案件開発・運用を通じて経験を積むとともに、国内にも知見を還元。当社の強みである大規模開発能力を活用できる洋上風力などを中心に、開発を促進します。





最適化

年間約4,000万tという世界最大級のLNG取扱規模と10年を越える最適化・トレーディングの経験を有するJERA。
この巨大なエネルギーの流れ「燃料調達→輸送→受入・貯蔵→発電→販売」を
トレーディングも活用しながら一体的に最適化することで、最も経済的かつ弾力的な運用を実現します。
国内における電力・ガスの販売は、長期相対取引に加えて短期相対取引や取引市場を活用。
お客様のニーズに応じたエネルギー・ソリューションを提供するとともに、エネルギー市場の発展にも貢献します。



短期燃料調達・最経済運用

長期燃料調達契約の条件見直しを通じた競争力改善を追求しつつ、短期(LNGは4年以内)の新規燃料調達戦略を構築。JERA Global Marketsを通じて、価格競争力や数量・価格変動リスクへの対応力に優れた短期調達を実現。加えて、LNGおよび石炭を跨いだ発電所の最経済運用を实践。燃料調達の最適化拡大に資するポートフォリオを活用することにより、国内において信頼性が高く、安価な電力・ガス供給に貢献します。

最適化・トレーディング

2008年に開始した石炭の最適化・トレーディングはLNGにまで領域を拡大。シンガポールおよびロンドンを拠点とするJERA Global Marketsを中心に約300名の体制で、世界最大級の燃料調達規模を梃子にしたアセットバックトレーディングを行い、サプライチェーン全体の最適化に貢献します。

電力・ガス販売

市場での取引価格や条件をベースとした長期・大規模な相対取引に加え、短期相対取引や国内の電力・ガス市場も活用し、優れた電力・ガス販売ポートフォリオを構築。最適化・トレーディングや北米での電力事業における経験を活かし、国内の電力・ガストレーディングにも取り組みます。



〇&M・エンジニアリング

関東および中部地方で約70年にわたり安定して
電気をお届けし続けた実績と現在も国内外の約8,000万kWの
発電所を保有・操業する中で得た〇&M(運転・保守) および
エンジニアリング(開発・建設)のノウハウを有するJERA。
発電所の建設から保守・運営に至る長期間において
事業に責任を持ち、地域と共生していきます。
これまでに培った知見と世界の先鋭技術を組み合わせることで、
世界トップクラスの〇&M・エンジニアリングサービスを提供し、
安全で競争力があり、機動的な発電所・受入基地の運営を
国内外のお客さまにお届けします。

川崎火力発電所(神奈川県)

〇&M・エンジニアリング技術

国内外の発電所操業を通じて培ったノウハウを活用し、安全を前提に、定期点検期間の短縮によるコスト競争力の強化や対応可能な燃種の拡大による柔軟かつ機動的な発電所運営などを実現。加えて、デジタル技術を用いた遠隔監視やビッグデータを活用した予兆管理、バッテリーなどの新技術の導入を進め、世界トップクラスの〇&M・エンジニアリングサービス“JERA O&M Way”を提供します。



〇&M・エンジニアリング 第三者販売

“JERA O&M Way”を各国のお客さまのニーズに合わせてグローバルに展開。また、火力発電で培った知見を活用して幅広い分野におけるニーズを積極的に開拓し、〇&M・エンジニアリングサービスの提供を拡大します。

主な海外事業

主なLNG調達国※ (■:青色塗り)

オランダ

- ・リートランデン石炭ターミナル事業

英国

- ・ガンフリートサンズ洋上風力発電事業
- ・Zenobe蓄電池事業
- ・JERA Global Markets (最適化・トレーディング)



JERA Global Markets UK Ltd.

カタール

- ・ラス・ラファンB・ガス火力IWPP事業
- ・ラス・ラファンC・ガス火力IWPP事業
- ・メサイード・ガスIPP事業
- ・ウム・アル・ホール・ガス火力IWPP事業

UAE

- ・ウム・アル・ナール・ガス火力IWPP事業

バングラデシュ

- ・サミット・パワー社 IPP事業
- ・メグナハット・ガス火力IPP事業

インド

- ・ReNew Power
風力・太陽光発電事業



オマーン

- ・スール・ガス火力IPP事業



EGCO発電事業

タイ

- ・EGCO発電事業
- ・工業団地内SPP事業
- ・太陽光IPP事業
- ・ラチャブリ・ガス火力IPP事業
- ・風力IPP事業
- ・粉殻発電事業

シンガポール

- ・JERA Global Markets (最適化・トレーディング)

台湾

- ・彰濱／豊徳／星元・ガス火力IPP事業
- ・フォルモサ1洋上風力発電事業
- ・フォルモサ2洋上風力発電事業

フォルモサ1洋上風力発電事業



フィリピン

- ・ティームエナジー発電事業

インドネシア

- ・パイトン・石炭火力IPP事業
- ・チレボン・石炭火力IPP事業



ダーウィンLNG事業

オーストラリア

- ・ダーウィンLNG事業
- ・ウィートストーンLNG事業
- ・ゴーゴンLNG事業
- ・イクシスLNG事業

日本

米国

- ・テナスカ・ガス火力IPP事業
- ・キャロルカウンティ・ガス火力IPP事業
- ・クリケットバレー・ガス火力IPP事業
- ・リンデン・ガス火力IPP事業
- ・コンパス・ガス火力IPP事業
- ・フリーポートLNG事業
- ・JERA Global Markets (最適化・トレーディング)



リンデン・ガス火力IPP事業

メキシコ

- ・バジャドリド・ガス火力IPP事業
- ・ファルコン・ガス火力IPP事業

2021年3月31日時点
 IPP (Independent Power Producer: 卸発電事業者)
 IWPP (Independent Water and Power Producer: 卸発電造水事業者)
 SPP (Small Power Producer: 小発電事業者)
 ※当社の受入基地に輸入した国を表す。(2020年度)

国内火力発電所

2021年3月31日時点

●火力発電所一覧※1

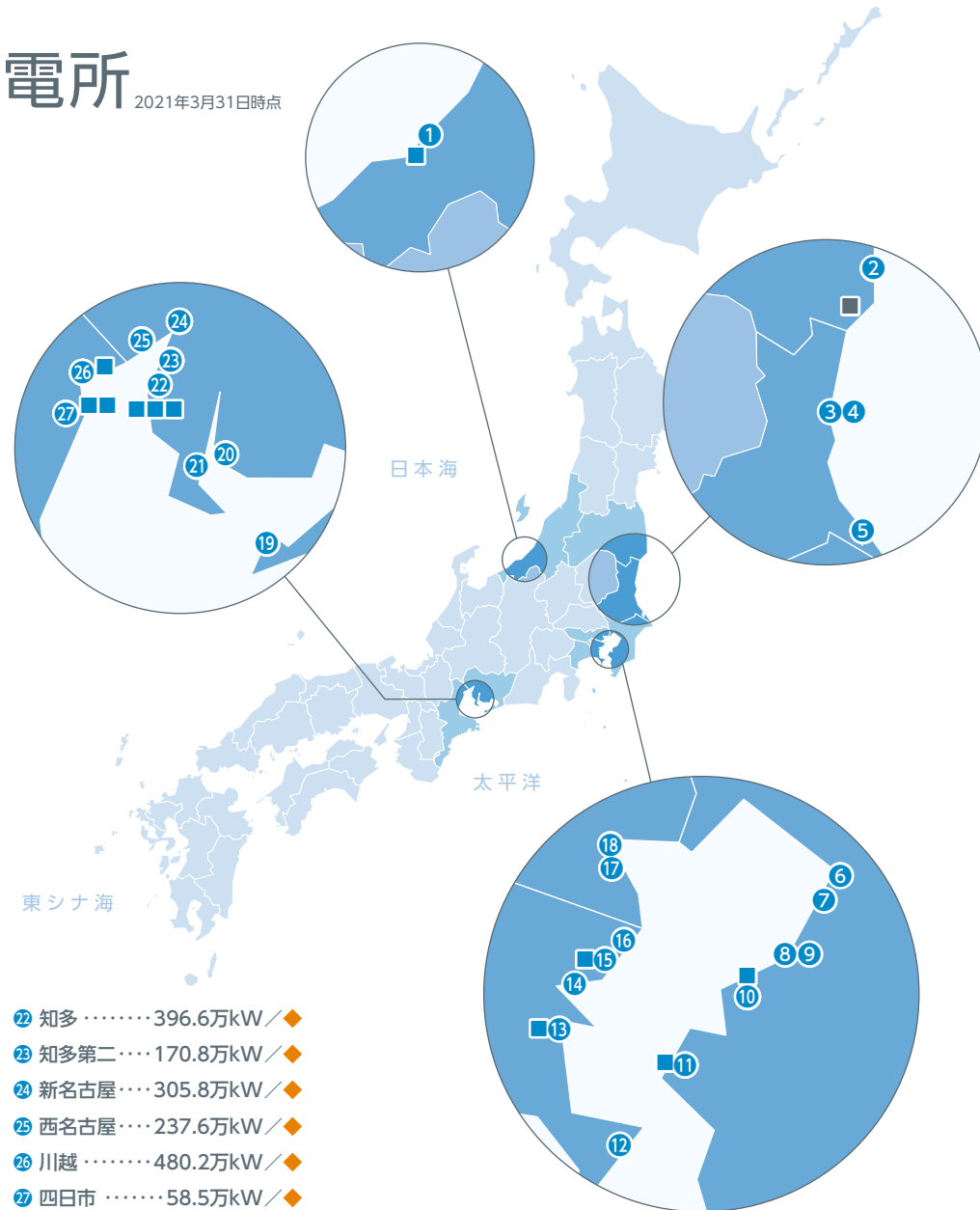
〈各火力発電所の合計出力／燃種〉

- 1 上越 ……238万kW／◆
- 2 広野 ……440万kW／◆◆◆
- 3 常陸那珂 ……200万kW／◆
- 4 常陸那珂共同
〈常陸那珂ジェネレーション〉
……65万kW／◆
- 5 鹿島 ……566万kW／◆◆◆
- 6 千葉 ……438万kW／◆
- 7 五井〈五井ユナイテッドジェネレーション〉
……リプレースを計画中
- 8 姉崎 ……360万kW／◆
- 9 姉崎〈JERAパワー姉崎〉※
……194.1万kW／◆
(※2023年度に運転開始予定)
- 10 袖ヶ浦 ……360万kW／◆
- 11 富津 ……516万kW／◆
- 12 横須賀〈JERAパワー横須賀〉※
……130万kW／◆
(※2023年度に運転開始予定)
- 13 南横浜 ……115万kW／◆
- 14 横浜 ……354.1万kW／◆
- 15 東扇島 ……200万kW／◆
- 16 川崎 ……342万kW／◆
- 17 大井 ……105万kW／◆
- 18 品川 ……114万kW／◆
- 19 渥美 ……140万kW／◆◆
- 20 碧南 ……410万kW／◆
- 21 武豊〈JERAパワー武豊〉※
……107万kW／◆
(※2022年度に運転開始予定)
- 22 知多 ……396.6万kW／◆
- 23 知多第二 ……170.8万kW／◆
- 24 新名古屋 ……305.8万kW／◆
- 25 西名古屋 ……237.6万kW／◆
- 26 川越 ……480.2万kW／◆
- 27 四日市 ……58.5万kW／◆

- ◆ LNG
- ◆ 石炭
- ◆ 重油
- LNG基地※2
- ◆ 原油
- ◆ 都市ガス
- 石炭基地

※1 発電所名。◇は設置者(事業者)名。

※2 知多・四日市地区は、他社との共同基地を含む。



役員一覧

2022年4月1日時点

取締役及び監査役

代表取締役会長 代表取締役社長
佐野 敏弘 小野田 聡

取締役

可児 行夫 奥田 久栄 酒入 和男 デビッド・クレイン ジョセフ・M・ネイラー 鈴木 みゆき
勝野 哲 守谷 誠二

監査役

荒木 重洋司 大石 英生 近藤 通隆

業務執行体制

代表取締役会長 代表取締役社長
佐野 敏弘 小野田 聡

副社長執行役員

可児 行夫 奥田 久栄 酒入 和男
(事業開発管掌) (経営企画管掌) (財務・経理管掌) (CFO)

常務執行役員

サミ・ベンジャマ ICT管掌 (Global Chief Information and Digital Officer)
大藪 浩志 (ビジネスサポート&ソリューション管掌)
中村 直 (最適化管掌)
渡部 哲也 (O&M・エンジニアリング管掌)
久玉 敏郎 (JERA Asia Pte. Ltd. CEO)
スティーブ・ウィン (JERA Americas Inc. CEO)

執行役員

矢島 聡 (再生可能エネルギー・海外発電開発統括部長)
熊澤 稔雄 (東日本支社長)
榊原 洋実 (西日本支社長)
葛西 和範 (JERA Global Markets Pte. Ltd. CEO)
角田 樹哉 (ESG担当)
浴田 孝司 (O&M・エンジニアリング統括部長)
藤家 美奈子 (ダイバーシティ&インクルージョン担当)

組織図

2022年4月1日時点

下記URLまたは右記QRコードよりウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jera.co.jp/corporate/organization/>



株式会社 JERA

会社概要

- ・会社名 ^{ジェラ} 株式会社 JERA
- ・所在地
 - 本社
〒103-6125 東京都中央区日本橋二丁目5番1号 日本橋高島屋三井ビルディング25階
TEL / 03-3272-4631 (代表) FAX / 03-3272-4635
 - 東日本支社
〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル9階
TEL / 03-3272-4631 FAX / 03-6363-5781
 - 西日本支社
〒450-6318 愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋18階
TEL / 052-740-6842 FAX / 052-740-6841
- ・設立日 2015年4月30日
- ・資本金 1000億円
- ・出資比率 東京電力フェエル&パワー株式会社…50% 中部電力株式会社…50%
- ・事業内容 火力発電事業、再生可能エネルギー事業、ガス・LNG事業、
これら各事業に関するエンジニアリング、コンサルティングなど



JERAの事業活動など、詳しくはウェブサイトをご参照ください。

www.jera.co.jp

